

宮ノ陣ビオトープ新聞

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

第 5 号

(2017 年 12 月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016 年 9 月創刊 季刊

ようこそ！

コガタノゲンゴロウが
宮ノ陣学びのビオトープに
やってきました！

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらせる環境を整えるために、定期的に学習や実践活動を行ってきました。十一月十八日(土)、これまでの活動をふりかえり、生物の生息状況を確認する講座「生き物探し大作戦二〇十七秋」が開講され、福岡県レッドデータブックに選定される昆虫「コガタノゲンゴロウ」も見つかりました。



網に入った生き物をのぞき込む受講生

気温約十度、冷たい風も吹く秋の週末、公募により集まった受講生親子が池の中からすくい上げた網の中の生き物を見て、目がまん丸になりました。そこには、ツチフキ、モツゴ、メダカなどの魚類、ヤゴ類、エビ類に交じって「コガタノゲンゴロウ」の姿がありました。

このビオトープに様々な生き物がくらせることを目指していますが、そのような環境は一朝一夕では整わず、自然の再生力と人の力により少しずつ整えようとしています。そんなゆつくりの変化の中、レッドデータブックに選定される種がくらししていることは、大きな喜びでした。さらに、これまでの講座において捕まえ、放流した魚類も元気に暮らしていたことも嬉しいことでした。

陸上からはわかりにくい池の中にも多くの生命が確認することができ、生き物がくらし続けるためにできることを考える機会になりました。

カワニナも元気だった！

八月に開講した「川の生き物探し大作戦二〇一七夏」では、高良川の上流にある一ノ瀬親水公園で、実際に多くのホタルが飛翔する環境を観察し、ビオトープにもホタルがくらせるようにするために、まずはホタルの幼虫がくらせる活動を行いました。具体的には、次の二つを行いました。

① 現状のビオトープ池の水路底は砂地でホタルの幼虫の餌になるカワニナがくらしづらいため、カワニナが吸着できる小石を集めて、ビオトープ池の流れのある水路に配置する。

② 大きさ(生息年数)の異なるカワニナを捕まえて小石を配置した水路に放流する。

カワニナにとつては、くらす環境が変わるため、くらし続けられるか懸念はありましたが、数量は少ないものの確認することができました。



カワニナを放流する受講生(2017 年 8 月)

なお、カワニナの放流に関しては、伝統的特性を保全するために、本ビオトープと同じ水系(流域)内にある高良川より採取したものを放流しました。

葉っぱで十円玉がピカピカに！

十一月の講座では、植物の専門家を招き、秋のビオトープ内の植物のお話しも聞きました。寒くて乾燥する厳しい冬を耐えるため、葉を落として一休みする落葉樹や秋に実らせるドングリの話など秋の植物の特徴を聞きました。



植物の専門家の話を聞く受講生

また、葉に酸味を含み、噛むと「酸い葉」が語源になっていると言われる多年草のスイバが池の周囲に生育しています。スイバの葉っぱで十円玉をこすると、ピカピカの銅色に戻りました。スイバにはシュウ酸という成分が含まれており、化学反応により十円玉の表面の酸化鉄が溶け出たのです。



スイバで十円玉をこする受講生

「レッドデータブック」とは？

絶滅のおそれのある野生の動植物のリスト(レッドリスト)及びそれらの生育・生息状況を取りまとめた本のことです。国際自然保護連合(IUCN)により、一九六六年に最初のレッドデータブックが作成されました。表紙に赤い紙が使われていたため、レッドデータブックと呼ばれています。

福岡県では、県内の絶滅のおそれのある生物の現状を把握し、希少野生生物への理解を深めると共に、これからの保全対策の資料として役立てるため、平成十三年三月に「福岡県の希少野生生物」福岡県レッドデータブック二〇〇一」が発行され、平成二十三年十一月と平成二十六年八月にそれぞれ改訂されています。

なお、コガタノゲンゴロウの絶滅危惧二類(二はローマ数字)の選定要件は、次のいずれかに該当する種です。

【確実な情報があるもの】

① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。② 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。

出典 ホームページ「福岡県の希少生物」



池に「竹炭ネット」を設置

ビオトープの池の水の濁りを「竹炭」を使って取り除くことができるのか？そんな実験のため、竹炭を水路に設置しました。

池の水は、主に雨水を使い、ポンプで循環させています。池には外部から風に乗って入る粉塵や魚類の糞、プラ

竹炭を使って池の水の浄化実験



里山保全活動で竹を伐る様子

ンクトンなど様々な不純物が混ざります。これらの不純物は増えすぎると生き物の生息に影響するので、ろ過装置を使って取り除いています。それでも池の水の濁りは完全に取り除くことはできません。取り除けない濁りの原因は、主に粘土状の成分

やプランクトンなどの微細な粒子です。小さい粒子は底に沈まず漂うため、水が濁って見えます。

今回の実験は、竹炭の表面に無数に空いている穴に、水の濁りの原因となっている微細な粒子を吸着させて取り除こうとするものです。竹炭をネット袋に入れて池内の水路に設置しました。

また、この竹炭は福岡県内で実践されている里山保全活動で伐った竹から作られたもので、里山の資源を有効に使うことにも役立っています。

実験の経過については次号でご報告します。

◆ 宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内 ◆

住所/ 〒839-0805 久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番
 開園時間/ 9:00～17:00
 休園日/ 毎週水曜日（休日の場合は翌日）、12月29日～1月3日
 アクセス/ 車：国道322号沿い、駐車場有り
 電車：西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分
 問合せ/ くるめハイトラスト株式会社
 TEL/0942-27-7515
 FAX/0942-27-7491



宮ノ陣学びのビオトープのこれまでの活動

2016年
10月

水辺の生き物探し大作戦 2016 秋
～こうら水辺の楽校で魚をつかまえて宮ノ陣学びのビオトープに放流～



2017年
3月

ホタルのくらしを知る
～宮ノ陣学びのビオトープにホタルがくらするようになるためにできることを考える～



2017年
6月

親子でホタルを見に行こう
～実際にホタルがくらしている場所に行って宮ノ陣ビオトープとの違いを比べる～



2017年
8月

川の生き物探し大作戦 2017 夏
～川の魚を観察し、宮ノ陣ビオトープの水路に小石を敷き、カワニナを移植～



2017年
11月

生き物探し大作戦 2017 秋
～放流した魚やカワニナの生息調査、秋の植物学習、竹炭を使った水質浄化実験～



続 く

コガタノゲンゴロウ

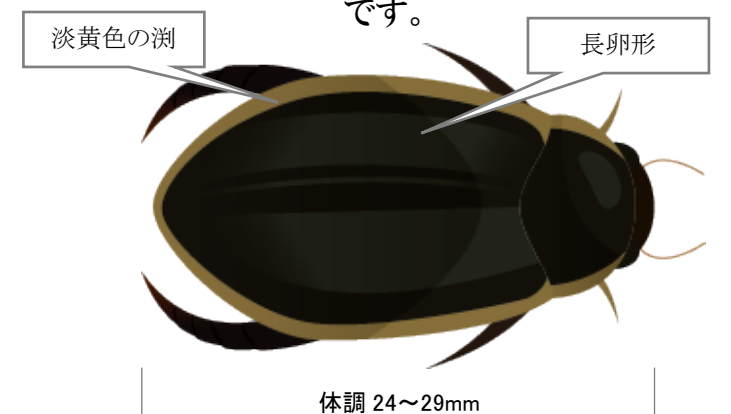
- 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類
- 福岡県レッドデータブック 2014 カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類
- 湖沼開発、湿地開発、ため池改修、農薬使用、管理放棄などにより減少
- 1960年代以降に急激に採集例が減少したが、2000年代後半頃より新たな生息記録が出始めている
- 体長約24～29mm。体は長卵形
- 前胸背板から上翅の側縁部は淡黄色に縁取られる
- 成虫は、主に弱った魚や動作の鈍い水生昆虫などを捕らえ、強力な顎でかじり取って食べる
- 幼虫は動くものは何にでも反応し、大顎で捕らえ、消化液を送り込み、体外消化して吸い込む
- 成虫で越冬し、翌年の4～7月に水草の茎に穴を開け、1個ずつ産卵する
- 孵化した幼虫は約2カ月で成虫となる
- 通常2～3年は生きるようである
- 主に平地の水生植物の豊富な浅い止水域を好んで生息する

出典：HP「福岡県の希少生物」

宮ノ陣
学びの
ビオトープ

生き物
図鑑

「宮ノ陣ビオトープ」に生育する木や草花、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。
 第5回は、「コガタノゲンゴロウ」です。



体長 24～29mm